

「日韓の歴史問題」をどう伝えるか・第3回研究会：美術館で歴史を語り合う

● 開催趣旨

今回の、「歴史問題」を考える研究会は、横浜美術館で開催します。同館で開催中の「いつもとにりにいるから 日本と韓国、アートの 80 年」を鑑賞し、学芸員からのお話しを受けたうえで、参加者とともに、日本人と韓国人、在日コリアンの美術家たちのそれぞれの作品から感じられること、それが集まって展示されていることの意味、さらには、美術は過去の記憶継承や「歴史問題」の解決にどのような役割を果たすのか、美術館という場所はどのような場所として期待されるのか、などを議論して行く予定です。

展示の鑑賞と文章でのコメントの提出、対面でのレクチャー受講と討論に参加することが可能な方、20名を募集いたします。参加者の入館チケットは韓国学研究センターが負担しますが、会場となる横浜美術館までの交通費は自費でのご負担をお願いします。なお、本展では、映像作品の合計時間だけで9時間30分となっており、当日のみではすべて鑑賞することができない点をご理解ください。希望者は、下記のグーグルフォームからお申し込みください。定員に達し次第、締め切りとさせていただきます。

● 開催日時・場所と当日の予定：

2月14日（土）10時～16時30分（予定）

10時に横浜美術館入口に集合。韓国学研究センター職員がチケットをお渡しします。

10時～14時30分 企画展「いつもとにりにいるから」を鑑賞（昼食は適宜お取りください）。

14時30分～15時 コメントの提出、回収、自己紹介。

15時～16時半 横浜美術館内会議室でレクチャーと討論

講師：日比野民蓉（横浜美術館主任学芸員）「美術作品と個人史から、歴史をときほぐす」

コーディネーター：小田原のどか（横浜国立大学専任講師）

● 言語：日本語（通訳なし）

● 参加希望者は、下記のウェブフォームまたはメールでの登録をお願いいたします。

当日の注意事項などについて、メールでご連絡を差し上げます。



・事前参加登録はこちらから→ <https://forms.gle/NZANHTS5kR2oarCf9>

・お問い合わせ cks@iags-cks.c.u-tokyo.ac.jp（東京大学韓国学研究センター事務局）

主催 東京大学韓国学研究センター 後援 韓国国際交流財団